



市立横手病院 臨床研修医募集のご案内



～大切な2年間を充実させるために～



しりつよこてびょういん

市立横手病院/秋田県横手市

<https://www.yokote-mhp.jp/>

医師としての第一歩を踏み出す皆さんへ



臨床医としての歩みは、「腕を上げ続ける歩み」でなければなりません。腕を上げ続けるためには「患者さんから学び続ける」ことです。診断が正しかったか、妥当であったか。治療が正しかったか、妥当であったか。患者さんから学び続け、必要があれば修正をすることで、腕を上げ続けることができます。

臨床医の仕事は、全うに診断し、全うに治療をすること、そして「患者を安心させる」ことです。患者を安心させるとは、どういうことでしょうか。説明は最も大切ですが、「気安め」の説明はできません。決して虚偽の説明はしないと心に決め、患者の心の状態・希望に沿うための準備、五感を研ぎ澄ましている必要があります。

医師には大きな責任がありますが、決して一人で抱え込まないことです。先輩医師や同僚の看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、栄養士、メディカルソーシャルワーカーなど、多くの心強い仲間とチームを組むことで、さらに良い仕事ができます。そして進歩できます。

私共の市立横手病院は明治22年に設立されました。現在までの130年以上の歴史は、先輩たちの努力と進歩、そして住民から必要とされ支持されてきた歴史です。

地域住民から信頼される病院であるために、安心できる良質な医療を提供し、心ふれあう人間味豊かな対応をすることを、病院の基本理念としています。

この市立横手病院で「腕を上げ続ける歩み」を始めませんか。

認定施設



日本医療機能評価
機構認定基準



人間ドック健診施設
機能評価認定施設

プライマリ・ケアを学ぶ！

急性期医療を実践する！

多くの手技を経験する！

市立横手病院の研修環境

市立横手病院は、明治22年に開設された秋田県でもっとも歴史のある病院です。感染症指定病院としての役割を担い、令和3年度に完工した改修設備を活かして、安心・安全で質の高い急性期医療を提供しています。また、地域包括ケア病棟を設け、入院から在宅まで切れ目のない医療を提供し、自治体病院として地域医療に貢献しています。

研修医においては、経験・習得できる手技が圧倒的に多く、特に消化器内科では集中して症例を経験することができます。2年目の研修終了時点では、ルーチンの上部・下部内視鏡検査、超音波検査を問題なく行えるようになり、胃粘膜下層剥離術(ESD)も数例経験できます。また、近年は糖尿病内分泌内科や循環器内科も充実してきており、後期研修医やすきがけで選択する病院としても定評があります。



県内トップレベルの消化器センター

救急告示病院・DPC対象病院

救急医療に関する技量を有する医師が常時従事し、救急医療を行うための施設・設備を有する救急告示病院として地域の中核的医療機関としての役割を担っています。

また、当院は平成21年度より傷病名や診療内容に応じて厚生労働省が定めた1日当たりの定額の医療費を基本として計算する「包括方式」のDPC対象病院に認定されました。いち早く完全電子カルテ化を進めるなど時代の変化に速やかに対応し、健全で安定的な病院運営を心掛けています。

消化器センター

消化器疾患全般に対応できる消化器センターを平成22年に設置しました。患者さんにとって最適の治療法をめざし質の高い医療の提供を常に目指しています。特に食道・胃・大腸の早期がんに対する粘膜下層剥離術は年々増加しており、他地域から紹介される症例が増えています。肝胆膵の分野では、腹部超音波診断のレベルが高く、肝炎から肝硬変、肝がんに至るまで、放射線科医と協力し自院で完結した治療を行っています。また、外科との連携で腹部の救急に力を入れており、より速く正確な診断と患者さんにとって十分かつ最も負担の少ない治療を目指しています。



最新機種の内視鏡

診療科目

内科、消化器内科、心療内科、呼吸器内科、循環器内科、糖尿病内分泌内科、神経内科、血液腎臓内科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、眼科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科 計16科

病床数229床

(一般病床 225床 感染症病床4床)

外来患者数537人/日

入院患者数52,003人/年

救急外来患者数12.9人/日

救急車搬送件数1,201件/年

手術件数1,050件/年

分娩件数200件/年

令和4年度実績

手術室



多目的デジタルX線システム(R2導入)



指導医・専門医

経験豊富で多彩な指導医・専門医が、研修医の皆さんの成長をサポートします。

基本領域の認定施設

その他の認定施設



日本内科学会
教育関連認定施設



日本外科学会
専門医制度関連施設



日本整形外科学会
研修施設



日本泌尿器科学会
専門医教育施設

【subspecialtyの学会】

- ・日本消化器病学会
- ・日本消化器外科学会
- ・日本脊椎脊髄病学会

【その他】

- ・日本消化器内視鏡学会
- ・日本超音波医学会
- ・日本人間ドック学会
- ・日本がん治療認定医機構
- ・日本内視鏡外科学会
- ・日本静脈経腸栄養学会

指導医・専門医 在籍数

指:指導医 専:専門医

学会名	指	専	学会名	指	専	学会名	指	専	学会名	指	専
日本内科学会(総合内科専門医)				2		日本放射線腫瘍学会・日本医学放射線学会			放射線治療専門医		1
日本消化器病学会	2	3	日本外科学会		4	日本脊椎脊髄病学会	1		日本核医学会		1
日本消化器内視鏡学会	1	2	日本大腸肛門病学会		1	日本リハビリテーション医学会	1		日本人間ドック学会		1
日本肝臓病学会		1	日本小児科学会		1	日本産科婦人科学会		2	日本糖尿病学会		1
日本循環器学会	1		日本泌尿器科学会	1	1	日本整形外科学会		3			

大切な2年間で充実させるために



臨床研修 プログラム責任者
副院長 船岡 正人

ふなおか まさと
船岡 正人

当院は一般225床、感染症4床を持つ秋田県南部に位置する急性期病院です。その歴史は古く、自治体病院として130年以上の歴史があります。病院の規模はそれほど大きくはありませんが、横手市以外の周辺地域からの患者さんも多く、地域に根差し、なくてはならない病院となっています。初期研修医も数多くの症例を経験できるので、2年間で医師としての基本的な臨床能力を身につけることができます。また指導医の理解もあり、研修医のうちから経験、習得できる手技が多く、プライマリ・ケアを学び基本手技を習得するには最適な環境です。

当院の研修プログラムは選択期間をできるだけ長くとり、プログラムの自由度を重視しています。さらに当院で研修ができない診療科に関しては、協力型臨床研修病院や臨床研修協力施設での研修が可能です。これまでの初期臨床研修医は、皆十分に成長し臨床研修を修了、その後当院や他院の後期研修へ進んでいます。

秋田県横手市は人口約8万4千人程（令和5年）で、自然がとても豊かな城下町です。漬物等の発酵食品、日本酒・ワイン・地ビール生産、ぶどう、りんご、さくらんぼ等の果樹栽培も盛んなところです。病院の前を横手川が流れ、後ろには横手城をみることができます。晴れた日には秋田山形県境にある鳥海山（通称出羽富士：標高2,236m）がとてもきれいに見えます。このように自然環境には大変恵まれています。病院内の環境も良好で、医師だけではなく、メディカルスタッフ、事務職員を含め病院全体で研修医を支える体制が整っています。当院では安心して初期臨床研修が受けられます。医学生のみなさん、このような最適な環境の元で一緒に働きましょう。

臨床研修の 目標の概要

医師としての人格を養い、将来どのような分野に進むにせよ、医学、医療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、幅広い基本的な臨床能力（態度、技能、知識）を身につける。

医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を習得する。

研修プログラムの特徴

当院では内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、救急、地域医療を必修分野とし、一般外来での研修を含めることとします。

1年次で内科24週、救急部門4週、外科4週、小児科8週、産婦人科4週、精神科4週を研修します。

2年次で地域医療を4週、残りは当院で研修可能な内科、救急部門、産婦人科、小児科、外科、整形外科、泌尿器科、放射線科や協力型臨床研修病院や臨床研修協力施設において他の科目(麻酔科、呼吸器内科、保健医療・行政)を研修したい場合に対応が可能です。

プログラム例

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1年次	内科 (24w)						救急 (4w)	外科 (4w)	小児 (8w)	産婦 (4w)	精神 (4w)		
2年次	地医 (4w)	選択 (44w)											

※救急部門は、4週のパック研修の他、日当直(2年間で40日以上)を含め12週の研修とします。

※臨床研修協力施設(横手保健所・赤十字血液センター・市立大森病院)における研修期間は2年間で合計12週以内です。

※一般外来研修は、地域医療にて1週、その他を当院選択科での一般内科による並行研修をあわせた4週以上の研修です。

経験すべき症候

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常(下痢・便秘)、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害(尿失禁・排尿困難)、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候(29症候)



外科研修



放射線科研修



小児科研修

経験すべき疾病・病態

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)(26疾病・病態)

研修医セミナー

年間を通じて毎月第1・第3火曜日に研修医を対象とした症例検討会を、毎週金曜日には研修医勉強会を開催し、経験豊富な各科の指導医が現場で役立つ実践的な知識・技術を伝授しています。



研修医症例検討会

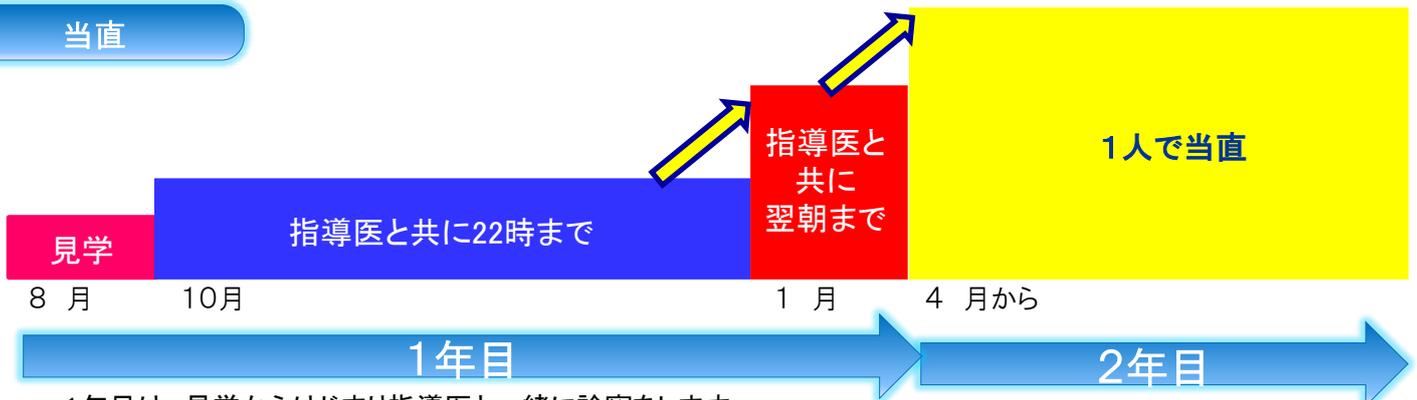


研修医勉強会

外科カンファレンス	毎週月曜
研修医症例検討会	第1・3火曜
医局勉強会	第2・4火曜
消化器勉強会	第2・4水曜
内科・外科・放射線科カンファレンス	毎週木曜
研修医勉強会	毎週金曜
救急カンファレンス	随時
消化器内科カンファレンス	第1・3・5水曜
臨床病理カンファレンス	随時(月1回程度)

主なカンファレンス

当直



1年目は、見学からはじまり指導医と一緒に診察をします。

2年目から1人で当直をしますが、オンコール体制を整えてますので、安心して指導医へ相談がすることができ、研修医をバックアップしています。

環境



研修医室

研修医室があり、研修医ひとりに1台の机と電子カルテ端末が設置されています。完全電子カルテですので、研修医室にいながら検査Dataや画像をチェックし、カルテ記載ができます。



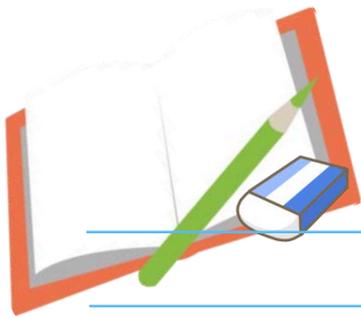
インターネット環境

「メディカルオンライン」、「医中誌Web」、「UpToDate」を利用でき、閲覧できる文献が豊富です。医局及び研修医室内は、Wi-Fi環境が整っています。



腹腔鏡シミュレーター

研修医室に腹腔鏡手術手技のトレーニングができるシミュレーターがあり、先輩医師から学ぶことができます。



初期研修医1年目の一週間の日記

●月曜日

今日は腹腔穿刺を行った。指導医の先生に指導していただきながら無事に行うことができた。一つ一つの手技を丁寧に行っていきたい。

●火曜日

火曜日は研修医の症例検討会がある。

今日は他の研修医が経験した貴重な症例を学んだ。

一人で経験する症例には限りがあるので様々な症例を共有できるのはありがたく、勉強になる。



●水曜日

指導医の先生と一緒に内視鏡検査に参加した。

目が慣れてくると内視鏡検査はとても面白い。

また生検やポリペクがあれば介助に入る。

次第に慣れてきて上手く介助できるようになってきた。

●木曜日

今日は血液培養を取った。手技の後は指導医の先生からのフィードバックがあるので自分のどこが悪かったかが分かって安心だ。次回の手技に活かしていきたい。

●金曜日

毎週金曜日は研修医勉強会がある。

今日は放射線科の先生が頭部の画像診断について講義してくださいました。典型的なものから非典型的なものまで、見逃してはいけないものばかりなので大変勉強になった。



研修医からのメッセージ

市立横手病院で2年間初期研修をさせて頂いた千葉です。自分は某大学の理学部を卒業→大学院に進学し修士号を取得→就職→医学部医学科に再入学という経歴で医師になりました。出身地は宮城県で、大学は関東であり、秋田との関係は小さい頃旅行に来る程度でしたが、横手の町並みと人の良さに惹かれ市立横手病院で働かせていただくことになりました。

研修を始めるに当たり、年齢が若干上であること、新天地であるということ、豪雪地帯であることなど、不安はつきませんでした。しかし、研修を始めてみると先生方やコ・メディカル方々から温かく接していただいたので、メンタル面で追い詰められることなく研修医生活を送ることができました。

横手病院の研修では1年目は決められた診療科(内科24週間、外科4週間産婦人科4週間、救急4週間、精神科4週間、小児科8週間)を回り、2年目は自分の希望する診療科を回ることになっています。当院では消化器センターがあるため消化器内科志望の先生が多く、2年目の研修のほとんどを消化器内科にする先生がいます。自分は研修期間中にいろいろ見ておきたいと思ったため、2年目では内科の他に整形外科・泌尿器科・麻酔科(他院にて)・産婦人科を回りました。横手病院は大きい病院ではないため、すべての診療科がそろっているわけではありませんが、それでもさまざまな経験を積むことができましたと思います。

今、2年間の研修を振り返ってみると、横手病院を選択して良かったと思います。しかし、価値観は人それぞれ異なるので、横手病院のような雰囲気苦手な人もいるかもしれません。いろいろな病院を見学して、自分に合った雰囲気の病院を探すのが良いと思います。その中で、横手病院が選択肢に残るのであれば幸いです。



千葉先生
(令和4年度修了研修医)



宮田先生
(令和4年度修了研修医)

市立横手病院で2年間初期研修をさせていただきました宮田と申します。研修を終えた今、研修先として当院を選択して良かったと心から感じております。その上で当院での研修の良かった点、物足りなかった点を述べていきたいと思います。

当院での研修は上級医からの手厚いサポートを受けながらも、任せるところは研修医に任せるというメリハリのあるスタイルを採っています。その最たる例は当直でしょう。1年目では上級医と一緒に段階的に当直に携わるようになり、2年目からはいよいよ1人での当直となります。院内に医師1人という環境はとても緊張感があり1人では判断に迷う症例や対応困難な症例にも遭遇することになります。しかしそのようなときに時間帯を問わず上級医の先生に相談できる環境と雰囲気が当院には十分に整っています。相談しづらいような先生は誰一人として居ません。深夜のコンサルトにも親身に対応してくださり何度も助けていただきました。

手技の取得に関してもCV挿入、動脈血採血、胸腔・腹腔穿刺、エコー検査など必須の手技は早いうちから経験できます。また当院は消化器内科の症例が非常に豊富で、消化器領域の手技習得に関しては申し分ない体制が整っています。研修医のうちから上部のみならず下部内視鏡検査まで習得できる当院は消化器を志望する者にとっては理想の環境と考えていいでしょう。

一方不満であった点を挙げるとするならば、中規模病院であるが故重症患者の診療経験が少なかった印象があります。また呼吸器内科や血液内科、脳神経外科などの症例は常勤医がいなかったためあまり経験することができませんでした。

しかし将来どの科に進んでも対応せざるを得なくなるようなcommon diseaseは十分に経験することができます。当院に少しでも興味を持っていただけましたら一度見学に来ていただくと幸いです。

研修医からのメッセージ



小松先生
(令和4年度修了研修医)

2年間市立横手病院で初期研修させて頂きました小松と申します。私は大学生の頃から内視鏡診断・治療がしたいと思い、消化器内科を志望していました。病院見学は5年生の夏から秋田と岩手を中心に5ヶ所ほど回りました。消化器内科志望だったため、消化器内科が強いと噂の病院を中心に回りましたが、1日見学したくらいでは違いがよくわからなかったため、見学した中で最も雰囲気の良い横手病院を選びました。

実際に2年間を過ごしてみると、確かに病院の規模はそこまで大きくはないですが、その分各科の垣根も低いためか雰囲気は良く、また優しく熱心な先生しかいないので、日常業務や当直で困ったことやわからないことはすぐに相談でき、研修しやすい環境だったと思います。研修医の数も少ないため、研修医が習得すべき手技もたくさん経験できます。研修プログラムは2年次はほぼ自由であるため、私は消化器内科を中心に回り、内視鏡検査や超音波検査をたくさん経験することができました。

横手は程よい街ですので、日常生活でも特に不自由することなく過ごすことができます。豪雪地帯ではあるため、冬はある程度覚悟していましたが、除雪や融雪が他の地域より機能しているため、そこまで困ることもありませんでした。

総じて初期研修で横手病院を選んで本当に良かったと私は思っています。ぜひ気になる方は一度見学にいらしてください。

横手病院は大きな規模の病院ではありませんが、common diseaseを多く経験できます。病院の雰囲気はとても穏やかで落ち着いた研修を行うことができます。診療科はそれほど多くありませんが、その分1つの科で集中して研修することができ、より深く学ぶことができます。またローテートを比較的自由に決められるので志望科で悩んでいる方にもおすすめです。文章だけでは魅力を伝えきれないので是非一度見学にいらしてください。

(令和3年度修了研修医 白山先生)



横手病院を研修先に選んだ理由は、見学の際に雰囲気が良かったことです。研修医同士だけでなく、指導医の先生も気軽に相談に乗れる環境づくりがされています。各々の科を回る際も研修医に1人指導医がつき、手技を多く経験することができます。「多くの患者さんを診る」といった点では少し弱いかもかもしれませんが、逆に1人の患者さんに多くの時間をかけられるため、一つ一つの症例にじっくり向き合うことができます。また福利厚生がよく、休みを自由に取れるため、趣味や自分の時間を大切にできます。

普段の帰宅時間は18時過ぎです。それ以降の帰宅時間になることは、気合がある日以外ありません(自分は他の研修医や上級医に質問などしに行きます)。土日でも自由にできることが多いです。2年目になると当直業務や午後外来などがあり、1年目に比べるとやや忙しくなりますが、むしろそれでちょうどいいくらいかもしれません。

見学では病院の雰囲気を一番に見て欲しいです。研修医はどんな込み入った質問でも答えると思うのでなんでも聞いてください。見学に来たら消化器内科を見学するのがおすすめです。

(令和5年度 2年次研修医 室本先生)

処遇

身分	常勤職員(会計年度任用職員)		
給与(基本給+研究手当)	1年次	510,000円(月額)	2年次 540,000円(月額)
賞与	1年次	825,000円(年額)	2年次 875,000円(年額)
勤務時間	8:30~17:15		
手当	通勤手当、時間外勤務手当など		
当直	月4回まで(2年次のみ) 当直1回当たり5万円程度支給 ※当直翌日は、業務引継後、勤務免除になります		
医師賠償責任保険	当院にて病院賠償保険加入あり、個人加入は任意		
休暇	有給休暇	1年次 20日	2年次 20日
	夏季休暇	3日	
	特別休暇	冠婚葬祭や病気休暇など	

病院見学

個別病院見学を随時受け付けておりますので、市立横手病院のホームページをご確認の上、お申込みください。

内容 希望の診療科を見学していただきます。



病院見学QRコード

募集要項

応募資格	令和6年医師国家試験受験予定者
選考方法	面接(オンライン対応可)
選考日	随時(希望日をお知らせください。)
募集人員	4名
応募方法	市立横手病院ホームページをご覧ください。



研修医募集QRコード

アクセス



- 横手駅から当院まで
バス 15分
横手駅東口の「横手バスターミナル」乗車、
「横手郵便局前」下車
タクシー 5分



- 横手ICから当院まで
車 約10分
- 秋田空港から当院まで
車 約1時間(秋田自動車道経由)



〒013-8602
秋田県横手市根岸町5番31号
市立横手病院 総務課 企画係
TEL:0182-32-5001
FAX:0182-36-1782
URL:<https://www.yokote-mhp.jp/>